

2024茨城史料ネットの活動から —常陸太田市文殊院「大般若経」の発見・公開—

佐竹一族の故郷・佐竹郷(茨城県常陸太田市天神林町)に所在する文殊院には、徳川光圀による寺社整理の影響を受け、薩都神社(同里野宮町)から移された「大般若経」があると伝えられてきました。地元住民が須弥壇の下を調べたところ大量の經典類が見つかり、その整理が茨城史料ネットに託されました。

コロナ禍による停滞を乗り越え、茨城大学の学生たち中心に進められた作業の最終盤に、近世の經典の残欠の中から「応永八年」の年紀をもつ、佐竹氏の従う武家領主・小野崎氏寄進の「大般若経」の断片(第291巻の最奥の一紙)が発見されたのです。その後の調査により、それは足利将軍足利尊氏・義詮や鎌倉公方足利基氏・氏満が彫らせた版本による「智感版」という版本経であることが判明しました。常陸国の中世史研究に新たな知見を加える発見となりました。

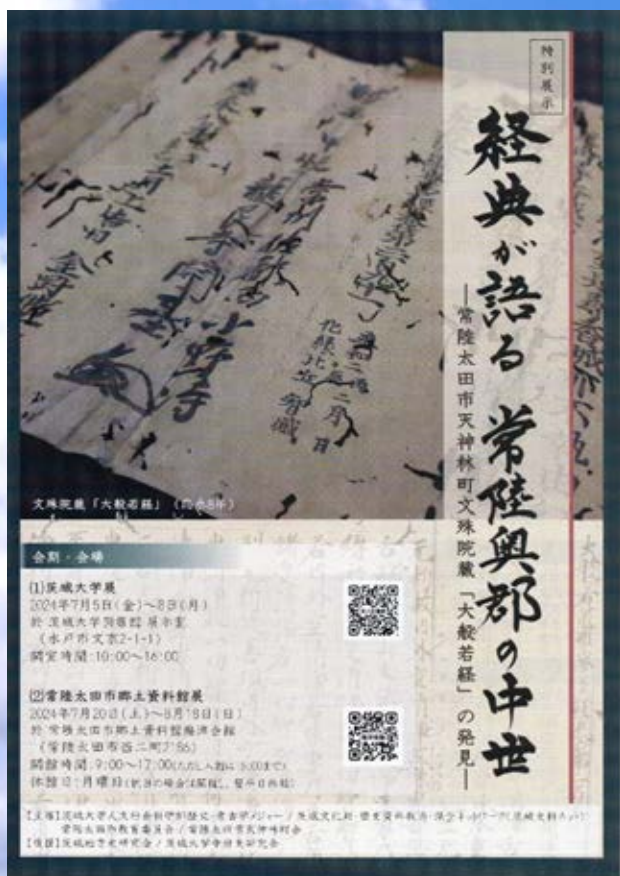
茨城史料ネットは、茨城大学や常陸太田市教育委員会と協力して、特別展示「經典が語る常陸奥郡の中世」を開催し、その他の聖教類とともに文殊院の資料を一般に公開しました。



取り出し時の状況



保全活動



特別展示ポスター



智感版「大般若経」



ギャラリートーク

会場(茨城大学図書館)風景